

2020年度 佐賀西部コロニー 事業実績報告書

1. 法人運営に関するもの

本年度は、法人全体として新型コロナウイルス感染症予防対策に取り組んでいる。特に4月3日、21日に「新型コロナウイルス感染拡大防止対策」として全職員に対して公私ともに県外などへの行動制限を依頼し、更にやむを得ず接触があった場合は1週間の出勤停止とするなど感染予防の徹底を行っている。また利用者様が帰宅する場合も利用者様はもとより家族様にも同様の要請を行った。

また税務管理指導においても、感染対策としてZOOMによるWeb会議を活用するなど、コロナ禍であっても透明性のある財務管理を進めてきた。

また太良町で7月に発生した豪雨による災害土砂を施設整備として取得した土地に受入し、災害復旧への協力と土地造成を進めた。

本年度は処遇改善特定加算を受給し、嘱託職員などへ3月に特別一時金の支給も行っている。

2. 福祉事業活動

コロナ禍において様々な法人行事を自粛しなければならない年となった。特に県内外から多数の方が来場する第36回全日本カブト虫相撲大会は、感染症予防対策が困難であり、35年間続けてきた大会を初めて中止することとなった。しかし大会趣旨である昆虫教室に立ち返り、昆虫のイラストコンクールを開催したところ総数716件の応募があり、インターネットによる投票など、新たな取り組みを行い盛会に行う事ができた。

また、運動会や勤労感謝の会の開催もできない状況であったが、各事業所の創意工夫で様々な活動を行い、利用者様に喜んでいただいた。こうした内容は施設だよりで報告をしている。

3. 就労事業活動

就労支援事業においては各施設とも厳しい状況となった。特に白石作業所においては県内の各種イベントが中止となったことや、店舗販売の縮小を行ったことから、収入が落ち込み持続化給付金の受給や工賃変動積立金を取り崩すなどし、各施設とも例年並みの工賃維持に取り組んだ。

2020年度 昆虫の里 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

2020年度は新型コロナウイルス感染症で始まり、その影響から福祉及び就労活動の運営に大きな支障をもたらした年になった。就労事業にとって受注及び営業活動、各イベントの中止になるなど様々な活動自粛など制限がかかる状況下となった。

就労事業は日々の衛生対策と並行しながら、秋以降の繁忙期は例年並みの受注状況になるなど回復の兆しが少しずつ見えてきた。

業務の改善、効率性に特化した取り組みを進めながら、利用者処遇に関しては個別支援計画書に基づき、ひとりひとりにあった細かな支援を行った。

高齢化が進む利用者様の健康維持活動については、ホームスタッフと連携し生活の質を高めるサービスを目指した。

職員の資質向上については、各種研修会がパソコンによる Web 研修で実施され障害福祉サービス事業所の職員としての知識向上とスキルアップに努めた。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

新型コロナウイルスの影響で各種イベントが中止になり、外部との交流に制限がある中に、近隣の感染状況を把握しながら衛生対策の確保を取り配送納品、販売活動などに参加するなど出来る範囲での社会参加を行い、意識を高めた。

(3) 快適な質の高い施設づくり

利用者様個々に合わせた支援を目指し、佐賀西部ホームと連携して支援にあたった。また偶数月第1土曜日を環境整備の日として施設内の環境美化に取り組んだ。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

出勤時の検温から始まり、体調確認を行い、作業時には安全配慮に心がけ、けがのない安全で明るい作業場の環境づくりに努めた。

健康維持を目的に朝礼時は毎日ラジオ体操を行い、皆で「私たちの誓い」を復唱し、明るく元気に一日のスタートができるように取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度、利用者様は4月1人、5月に1人利用開始され2人増員、11月末に1人退所された。障害福祉サービス事業収入は、77,527千円と昨年より3,953千円の増収となった。施設整備については常時点灯する箇所をLED電灯に更新した。また印刷部門のインクジェットプリンターやMac PC、事務室のエアコン設備を更新した。

3. 就労支援事業活動

今年度の木工部門は主に小ロット受注の家具工事、園庭遊具などの特注品を年間通じて製作し、多種多様な商品づくりを行った。施設工事についても訓練指導で出来る案件については整備を進め更新を図った。園芸部門はミカン園の改植事業が進行中であり、収量が限られる中に、木箱入り贈答用商品で差別化を図り付加価値を付け販売を中心に行った。印刷部門については高校総体を始めイベントが中止になるなど大打撃を受けたが、「国勢調査」関連の横断幕懸垂幕を落札するなどコロナ禍の中で明るい大口受注となった。就労支援事業収入は前年度より▲3,401千円減の29,695千円になり厳しい決算となった。

利用者工賃については工賃積立資産を取崩し、昨年度比774円減額の一人当たり月平均34,564円を支給することが出来た。

部門別の実績については、下記のとおりである。

		2020年度 (千円)	2019年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
木工部門収入		11,677	12,736	▲1,059	91.7
園芸部門	昆虫収入		2,845		
	果樹収入	10,266	7,868	▲1,663	86.1
	蔬菜収入		1,216		
印刷部門収入		7,751	8,429	▲678	92.0
合 計		29,695	33,096	▲3,401	89.7
一人当たり工賃		(円/月) 34,564	(円/月) 35,338	▲774	97.8

2020年度 佐賀西部ホーム 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) グループホーム運営について

生活支援のサービスとして、個別支援計画に基づきながら皆さんが「自分らしく暮らす」を目標に、生きがいを持って楽しく暮らせる事業所づくりを行いました。

本年度は新型コロナウイルス感染症対策により、利用者様の活動に制限があるなど支障がある年になった。衛生対策は日々の日課になり、通常の外出さえ感染リスクが高まることから、病院受診など公共交通機関の利用を控えてもらい、職員の送迎による支援を強化しました。また外出自粛が続き見通しが立たないことから、情緒不安定になる利用者様が多数いたが、常に傾聴し諭しながら心の支えを強化しました。6月には皆さんが安心・安全な暮らしができるよう、防火避難訓練及び水防法（土砂災害時避難確保計画）に基づいて大浦校区の指定避難場所まで移動訓練を実施しました。

休暇時の帰省は大多数の方が帰宅できない状況になり、ホームで楽しく過ごすことができるように計画しました。施設外余暇活動については、小グループに分かれて食事会、買い物研修など感染者数に注意を払いながら計画し、施設内余暇活動は定期的に食事会、カラオケ会など実施しました。

職員の資質向上については、各種研修会がパソコンによる Web 研修で実施され、多数の方に参加してもらい障害福祉サービス事業所の職員としてのスキルアップに努めた。

(2) グループホーム利用者様の豊かな人格形成

今年度は、法人全体のイベントは中止となったが、ホーム単独の食事会 カラオケ会や夏祭りを実施し季節に応じたイベントを実施し体験してもらった。また定期的に買い物支援や余暇活動を計画し、地域社会と交流を図りながら皆さんがコロナ禍でも、楽しい生活が送れる支援に努めた。

(3) 快適な質の高いグループホームづくり

昆虫の里との連携を図りながら、施設環境整備の向上を目指し、偶数月第3土曜日を環境整備の日として ホーム内外の清掃を行い 整理整頓の行き届いたホームづくりを行った。また細かい部分については定期的に支援員にて清掃及び衛生対策を行った。

(4) 喜び溢れるグループホームづくり

安心して生活できる生活環境の向上を図り、活力ある明るいホームづくりに努めた。互助会会議を通じて利用者の皆さんの意見を尊重し、自主的に取り組まれることはやらせてみて出来ないところを支援するように取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度は利用者様の人員の増減はなく、福祉事業活動収入 は48,787千円と前年より、882千円の増収となった。なお利用者様の支援については、個別支援計画に基づき、生活支援員を中心に世話人と連携を図りながら、本人の意思を尊重して支援にあたった。

2020年度 多良岳福祉園 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

本年度は、世界中に感染が広がるCOVID-19対策の1年であった。3密対策として食事提供を3班に分け、時間差による食事の提供や午前午後に施設内の消毒を行い、更には施設外での行動制限など、利用者様や家族様そして職員に協力を得ながら一つ一つ課題解決に取り組んだ。特に緊急事態宣言が発令された5月連休は、みなさんの安全を第一に考え施設での存所をお願いし、緊急事態宣言解除の後の夏期休暇や年末年始休暇は佐賀駅や唐津駅など主要駅までの送迎支援を行うなど感染リスクの軽減に努めた。また施設整備においては新型コロナウイルス感染症緊急包括交付金を活用し、感染拡大防止対策のためのプレハブの設置や空気清浄機、また消毒液などの衛生管理備品の備蓄も行った。

また こうした各事業所での予防対策以外でも、佐賀県主導による障害福祉施設でのクラスター発生時における応援職員派遣体制の構築の協力や災害発生時の佐賀県災害福祉支援チームDCATの参加など協力も行っている。

(2) 施設利用者の豊かな人格形成

利用者様がこれまで楽しみにしていた施設旅行や勤労感謝の会など法人行事や施設外での余暇活動を全面的に自粛せざるを得ない状況となったが、多良岳福祉園単独で太良町B&G海洋センター体育館を貸し切って運動会を開催し、太良町社会福祉協議会からの支援を受け太良町総合福祉保健センター「しおさい館」の大浴場での入浴など、新型コロナウイルス感染者の報告がない町内において、利用者様が楽しめる様々な活動に取り組んだ。

(3) 快適な質の高い施設づくり

車いすを利用する方が快適に生活できるよう居室入り口にスロープを設置したり、居室の衛生環境の改善を図るために畳からフロアマットに改修するなど、利用者様のADLに応じた個々の居室の改装に取り組んだ。

また玄関や廊下、更にはトイレ、脱衣場の壁の塗装を職員と利用者様と一緒に、施設内衛生美化にも取り組んできた。

職員の資質向上については、外部研修や講師を招いた研修会を自粛し、ダイヤモンド・プリンセス号の除染を行なった一般社団法人日本特殊清掃隊によるウイルス除染・消毒作業のYouTube動画を職員全員で鑑賞し、職員に必要な知識や技術の習得も取り組んだ。

なお多良岳福祉園の施設整備に向け、土地取得や災害土砂の受入を行いながら土地造成も進めている。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

園芸部門ではつる刈り機を導入、農産部門は椎茸乾燥機の製造により乾燥椎茸の生産を安定させるなど作業の効率化を進めた。野草部門は計画的な野草茶生産・販売、工芸部門では日中活動で作製した組紐や利用者様のイラストなど、季節に応じた作品を施設内に飾り付けをするなど、本年度も各部門責任者が中心となり利用者様の生活支援と合わせ、生産活動を通じて明るい施設づくりに取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度は、特別支援学校を新規で卒業した利用者を受け入れたが入所後すぐ長期入院となった。また、太良町内より新たに1名が入所し、1名の計画的な短期入所の受入と合わせ満床の状態となっている。

事業収益については昨年度の障害福祉等サービス事業収益206,060千円に対し217,743千円と、処遇改善特定加算2,560千円の給付を新たに受け年度末に対象職員に特別一時金として支給をしているが、11,682千円の増収となっている。

3. 日中事業活動

今年度は、農産部門、園芸部門、野草部門、工芸部門の4つの部門の事業の安定に取り組んできた。しかしコロナによる大口顧客からの受注減やしいたけの生産量が安定せず売上が伸びなかったため、内需事業で収入を補いながら、前年度並みの21,402千円の就労支援事業収益を確保した。なお利用者の工賃については、一人当月平均12,450円の支給となり昨年度とほぼ同額となった。

部門別の収入実績については、下記のとおりである。

	2020年度 (千円)	2019年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
農産部門収入	15,873	15,507	366	102.4
園芸部門収入	3,861	4,056	▲195	95.2
野草部門収入	1,632	1,664	▲32	98.1
工芸部門収入	37	6	31	616.7
合計	21,403	21,233	170	100.8
一人当月工賃	(円)	(円)	1	100.0
	12,450	12,449		

4. 相談支援事業

コロナ禍で訪問支援が困難な状況であったが、地域から閉ざされた在宅支援者に対しても関係機関と連携を深めながら支援にあたった。また今年度も地域の社会資源を活用しながら、利用者意向を第一としたサービス等利用計画の作成に努めた。

令和2年度 白石作業所 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

- (イ) 今年度も、新型コロナウイルスの世界的感染拡大に伴い就労事業の販売活動に大きな影響が出て、売上げが大幅に減収となった。このため佐賀県、白石町からの補助金や工賃積立資産の取り崩しによって工賃の確保ができた厳しい施設運営となった。又、施設内の感染拡大防止に努め、安心・安全な施設づくりと職場環境づくりに努めると共に、就労継続B型事業所として施設資源を十分に活用しながら、利用者様のニーズに適った明るく元気よくをモットーに働き甲斐のある施設づくりに全職員一丸となって取り組んだ。そうした中で、今年も利用者様が自ら地域での販売活動等を通してご支援をいただいた皆様に支えられながら、地域とともに就労の喜びと生き甲斐をもって作業に従事し、円滑に施設運営を進めることができた。
- (ロ) 利用者様の処遇に関しては、「明るく楽しく」をモットーに、就業中における事故等が起きず作業の安全が守られるように、職員の意識向上の啓発に努めながら労働安全衛生管理の徹底に取り組んだ。又、利用者様と施設の安心・安全確保のため通報システムや災害時に即座に対応できるように職員研修等も行い、施設の保安管理を進めた。
- (ハ) 職員の資質向上については、個々人の研鑽と意識改革の喚起を促すために各種研修会の参加を計画したが、新型コロナ感染拡大の影響で研修会の開催がなかったため、Web研修会の参加により職員資質向上に努めた。又、働き方改革にも応じた職員処遇の大きな改善に努めた。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

佐賀西部コロニー 3施設合同によるイベントは、ほぼ中止となったために各施設において利用者処遇向上のために様々な活動を進めた。映像による防災研修や余暇利用活動や、食事会等により社会との交流の喜びを習得させるよう努めた。

(3) 働き甲斐のある施設づくり

法人運営理念の『互譲互助』精神と『マスク・手洗い・うがい・手指消毒でコロナに負けるな』を1年の目標として、挨拶が響きあう明るい職場作りに努め、創意工夫を重ねながら、より効率的な作業体制をつくり、安全で快適な働き甲斐のある施設づくりに努めた。

又、利用者様で作る互助会会議を毎月1日に開催して、自分達の意見で話し合いながら1ヶ月の目標を立て、皆さんが協力し合いながら明るく楽しい施設づくりに努めた。

2. 福祉事業活動

本年度の障害福祉サービス事業収入は、69,149千円となり前年度より2,386千円の増収となる決算となった。施設整備の中では、『令和2年度中央競馬社会福祉財団』より補助金を受け、自己資金と合わせて玉ねぎ定植機を購入し、業務省力化を図ることができた。

又、水稻作業用の中古の田植え機とコンバインを近隣の農家廃業者より格安で譲り受け購入した。送迎用のワゴン車リース契約の新規更新を行い、安心・安全な送迎業務の改善を図った。利用者様の利用状況については、増員はなかったが11月末に1名の退所者があった。職員については、8月より1名の育休復帰者があり、9月と12月に1名ずつ育休取得者と3月末より1名の産休取得者があったが、基準上の職員配置内であり適切な運営を行うことができた。

3. 就労事業活動

本年度の就労事業収入は29,801千円となり、新型コロナウイルス感染拡大によるイベント中止や事業自粛等により農産収入も一般商品の販売収入も前年度に対し6,675千円の減収となった。工賃積立資産を取崩し、佐賀県や白石町からの補助金等を活用して工賃の確保に努めた。工賃については、目標工賃達成を利用者様・職員一体となって取り組んだが、2020年度は一人当たり月平均24,669円となり、前年度の26,701円に対して2,032円の減額となり、2020年度の目標工賃を達成することができなかった。

部門別の実績については、下記のとおりである。

部 門		年 度		差 額 (円)	前年度比 (%)
		2020年度 (円)	2019年度 (円)		
農 産 収 入	アイス収入	2,778,968	6,765,549	▲ 3,986,581	72.5
	園芸収入	2,768,027	3,463,204	▲ 695,177	
	菓子収入	4,446,338	4,834,937	▲ 388,599	
	加工収入	2,267,810	2,839,256	▲ 571,446	
	こんにゃく収入	2,084,335	1,890,243	194,092	
	小計	14,345,478	19,793,189	▲ 5,447,711	
販売収入		15,455,954	16,684,146	▲ 1,228,192	92.6
合 計		29,801,432	36,477,335	▲ 6,675,903	81.7
1人当たり工賃		(円・月) 24,669	(円・月) 26,701	(円・月) ▲ 2,032	92.4